

## 第 50 回 我孫子市放射能対策会議 会議概要

【場 所】 市長応接室

【日 時】 平成 27 年 9 月 2 日（水）9:00～

【出席者】 市長、副市長、教育長、水道局長（代理：経営課長）、総務部長、市民生活部長、環境経済部長、環境経済部参与、健康福祉部長、子ども部長、建設部長、都市部長、教育総務部長、生涯学習部長、秘書広報課長、商業観光課長、農政課長、クリーンセンター課長、健康づくり支援課長、保育課長、道路課長、下水道課長、教育委員会総務課長、学校教育課長、文化・スポーツ課長、手賀沼課長、放射能対策室長

### 【報告事項】

○放射線量測定結果及び放射能に関する対応について（各部課から）

・特になし。

○「我孫子市汚染土壌等の一時保管施設設置に伴う農産物損失補償検討委員会」の廃止について（農政課から）

- ・道路側溝汚泥の一時保管施設の設置に伴い発足した当該委員会について、施設内での汚泥の保管が終了したことから、地元の中峠下及び古戸の農家組合との協議の結果、廃止することで合意を得た。これを受け、平成 27 年 8 月 31 日付けで当該委員会の設置要綱を廃止した。
- ・これまで実施してきた施設周辺の農地の放射線量測定について、中峠下区の農家組合から継続の要望があったため、クリーンセンターと連携して対応していく。

○平成 27 年度の内科検診における甲状腺の視診・触診結果について（学校教育課から）

- ・計 10,009 人（小学生 6,799 人、中学生 3,210 人）が受診し、結果は下表のとおり。傾向的には、平成 25 年度及び 26 年度の結果と大きな差は無い。

【単位：人】

	受診者数	所見無し	所見有り	「所見有り」児童・生徒の精密検査の結果
小学生	6,799	6,790	9	異常無し…4 単純性甲状腺腫(要経過観察)…4 甲状腺機能亢進症(内服治療開始)…1
中学生	3,210	3,208	2	異常無し…1 甲状腺機能亢進症(内服治療開始)…1
合計	10,009	9,998	11	異常無し…5 単純性甲状腺腫(要経過観察)…4 甲状腺機能亢進症(内服治療開始)…2

- ・【市長から】市内小中学校の全ての児童・生徒が受診できるこの取り組みは、疾病の早期発見にもつながることから、小児科医からも高い評価を得ている。当面は継続する方向で我孫子医師会に協力を依頼していく。

## ○東京電力に対する放射能対策経費の賠償請求について（手賀沼課 放射能対策室から）

### 1) 平成 26 年度分の放射能対策経費の賠償請求

- ・平成 26 年度分の放射能対策経費のうち、国の補助金等の対象とならない 276, 720, 705 円について、東京電力に対し、平成 27 年 8 月 21 日に請求を行った（市長から東京電力千葉補償相談センターの所長に請求書を手渡し）。
- ・これまでに東京電力に請求し、未払いとなっている平成 25 年度までの放射能対策経費は、原子力損害賠償紛争解決センターにADR（裁判外紛争解決手続）を申し立てているため、今回の請求には含めていない。
- ・平成 27 年 9 月 30 日を期限に、請求に対する回答を東京電力に求めている。

### 2) ADRの進捗状況

- ・平成 27 年 7 月 13 日に、東京電力から我孫子市の申し立てに対する答弁書の提出があった。原子力損害賠償紛争解決センター和解仲介業務規程に基づき、手続きの過程は非公開だが、概要としては、時間外勤務手当と管理職勤務手当については留保としつつも、その他の放射能対策室職員の勤務時間内の人件費や除染費用等の支払いは否認するという内容だった。
- ・今後の審理を経て、原子力損害賠償紛争解決センターから和解案が示された後は、議案として上程する。

## その他

### ○「手賀沼の放射能対策に関する講演会」（平成 27 年 8 月 11 日開催）について（環境経済部長から）

- ・放射能対策特別委員会が主催する「手賀沼の放射能対策に関する講演会」が、平成 27 年 8 月 11 日に開催された。同委員会の委員をはじめとする我孫子市議会議員を対象とした講演会で、副市長や市の関係部署の職員も出席した。
- ・講師は、環境省の「環境回復検討会」の委員を務めている東京大学大学院の「森口 祐一」教授。講演の要点は次のとおり。

#### 〈講演の要点〉

- ◆河川・湖沼の除染について、国の除染関係ガイドラインでは、水による遮蔽効果によって生活環境への影響が及び難いため、水が干上がる可能性のある生活圏の「ため池」のみを除染対象としている。
- ◆浚渫には、水中での巻き上げや除去した底泥の保管場所等の課題がある。また、湖沼の底泥は「土壌」として扱われるため、「指定廃棄物」を対象とする長期管理施

設への持ち込みは難しい。

- ◆湖沼の除染については、底泥を砂で覆い、放射性物質を封じ込める手法なども提案されている。
- ◆千葉県の測定結果から、手賀沼内の放射性物質は、上流から流れて薄まりながら下に潜っていることがわかる。今後、沼底で放射性物質を含む底泥層の厚みは増すが、水に接する部分の放射性物質濃度は下がることが予想される。
- ◆新しく沼内に流入する放射性物質が減少し、水に接している底泥の放射性物質濃度も下がっていることから、魚に取り込まれる放射性物質の量が減少している可能性はある。福島県内の湖沼では、淡水魚の放射性物質の調査が進められている。この調査が進めば、魚の放射性物質濃度が時間とともにどの程度下がっていくのか見通しが立てやすくなる。

- ・市としては、新たな知見や提案、調査・研究等を見守りつつ、県、大学、研究機関等と連携した対応策の可能性を検討していく。

## ○放射能対策総合計画の検証と平成28年度の放射能対策について

(手賀沼課 放射能対策室から)

- ・「我孫子市第2次放射能対策総合計画」の計画期間は平成28年3月まで。計画期間の延長や新たな計画の策定は行わないが、平成28年4月以降も必要な対策は継続する。
- ・今後、放射能対策総合計画の検証作業を行う。食品の検査検体数等、必要なデータの提供について協力願いたい。
- ・今年の12月頃には、平成28年度の放射能対策の方針について、放射能対策会議で決定したい。
- ・【市長から】学校や保育園等の現場の声を聞きながら、各取り組みの担当課で来年度の方針についてたたき台を作ってほしい。それを踏まえて検討したい。

以上